

会議の概要

令和4年度 第9回 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 大山幼稚園学校運営協議会 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
○ 大山小学校学校運営協議会 ○ 玉井小学校学校運営協議会
○ 大玉中学校学校運営協議会

日時：令和5年2月24日（金）18:30～20:45
場所：改善センター1階 多目的ホール

（ 進行 指導主事 渡邊 博樹 ）

1 開会のことば （ おおたま学園CS委員会副会長 館下 愛理 ）

皆さん、こんばんは。これより令和4年度第9回コミュニティ・スクール委員会（以下CS委員会）と略記）を始めます。よろしくお願いいたします。

2 教育長あいさつ （ 大玉村教育委員会教育長 渡辺 敏弘 ）

皆さん、こんばんは。本日もお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。去る2月18日（土）に第4回コミュニティ広場が行われ、本日アンケート集計結果も配付されておりますが、その集計結果や自由記述等について見ると、どれも好意的な内容でありました。本当にありがとうございました。

今回は、今年度最後のCS委員会でありまして、第3回地域教育協議会も兼ねての開催となります。各幼稚園・学校の令和5年度経営方針の承認を始め大変内容が多く、ご負担をおかけすることになりますが、よろしくお願いいたします。限られた時間の中ではありますけれども、重要な内容ばかりですので、ご意見があれば遠慮なくご発言いただき、少しでも来年度の幼稚園・学校運営のためにご協力いただきたいと思います。

さて、次年度は委員の改選となり、今回このメンバーでの会議は最後となります。次年度も引き続き委員としてお世話になる方や、逆に委員から外れて外から支えてくださる立場になる方もいらっしゃると思いますけれども、いずれにしてもそれぞれの立場から今後ともご支援、ご協力をお願いします。

本日の会議どうぞよろしくお願いいたします。



3 おおたま学園CS委員会会長あいさつ （ CS委員会会長 伊藤 和弥 ）

改めまして、おばんでございます。本日もお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。最後のCS委員会ということで、盛りだくさんの内容になっております。聞いてもちょっと分からないところもあると思いますので、その都度質問等を出してください。

また、先日のコミュニティ広場大変お疲れさまでした。久しぶりの対面でのコミュニティ広場ということで、みなさんも楽しくできたのではないかと思います。

2月21日（火）には、「CSと地域学校協働活動の一体的推進」に関して文部科学大臣表彰受賞ということで、報告会が開催されました。今までの活動が評価されたものと思います。これまでも何度も受賞していることを聞いております。そういうことが目標ということではないのですが、それを励みとして、今後もより一層活動を頑張っていければいいのかなと思っています。今日もよろしくお願いいたします。

4 諸連絡 本日の日程・内容について

(指導主事 渡邊 博樹)

< 5つの協議内容について >

(1) 令和5年度各校園の経営・運営の方針等について

まず、各校園の評価委員長から学校関係者評価委員会の内容について4分程度で説明いただく。それを踏まえて、各校長・副園長から来年度の説明をお願いしたい。特に、来年度重点的に取り組むことや学校関係者評価の結果をもとに来年度改善すること、重点化していくこと等を中心に、5分程度で説明いただければと思う。その後、意見交換、承認ということで10分程確保している。

(2) 令和4年度おおたま学園CS委員会の運営について

今年度の反省、来年度の計画について説明する。それを踏まえて意見交換をする。

(3) 令和4年度地域学校協働活動実施状況報告等について

(4) 第4回おおたまコミュニティ広場アンケート結果から

(5) 令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果【大玉村概要】について

5 協議

(座長 CS委員会副会長 矢吹 吉信)

(1) 令和4年度各校園の経営・運営の方針等について(要点を抜粋)

① 学校関係者評価委員会について(学校関係者評価委員長より)

【大玉中学校】

(CS委員 浅和 博栄)

○ 重点目標の評価について(下記ア～オについて)

ア 学校経営の基本方針【教職員が一丸となって計画的・組織的に取り組む】

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

イ 自学：意欲をもって学ぶ生徒【「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、確かな学力の向上を図る】

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

ウ 共栄：認め合い高め合う生徒【地域や社会とつなぎ、多様な人々の心の交流を通して、豊かな人間性を育む】

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

エ 自鍛：自ら心身を鍛える生徒【健康的な生活習慣の確立に向けた健康マネジメント力の育成と体力向上に取り組む】

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

オ 地域と共に歩む学校づくり【社会に開かれた教育課程の実現と共に歩む学校づくりに取り組む】

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

< 全体意見として >

- ・ コロナ禍の中で先生方がいろいろ工夫しながらも、子どものために情熱を持って接しており、日頃から一生懸命指導いただいていることに感謝している。
- ・ 先生方の授業以外での時間確保が急務ではないか。その時間を利用して、子どもたちについての情報共有、悩みの共有や解決、授業のスキルアップ等に活用できるとよい。
- ・ 学力向上のためには、学校教育と家庭教育の連携が大事である。(子どもたちの自己マネジメント力を上げること、学びの刺激をどのように与えていくのか検討すること。)
- ・ おおたま学園の強みである幼・小・中一貫的教育の基軸や具体的な取り組みについて、関係者による検討が必要と思われる。

【大山小学校】

(CS委員会副会長 矢吹 吉信)

○ 重点目標の評価について

3つの重点目標としてあげられている下記の項目の達成状況、及び取り組みの適切さについて説明する。詳しくは評価報告書をご覧ください。

ア 進んで学習する子の育成(「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくり、学びを支える学習基盤づくり)

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

イ なかよく助け合う子の育成(道徳教育充実、生徒指導の充実、体験活動の充実)

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

ウ 健やかでたくましい子の育成(やり抜く心の育成、健康・安全教育の充実)

◆ 自己評価の適切さ B ◆ 改善に向けた取組の適切さ B

< 全体意見として >

- ・ 子どもたちの学習意欲の高まりを感じる授業実践がなされている。(しかも分かりやすい授業が行われている。)
- ・ 村の自然環境や人材を活用した様々な体験活動を取り入れており、学習活動が充実している。
- ・ 学校として児童の生活習慣(食生活やメディア利用等)の改善に一生懸命に取り組んでいる。家庭との連携をさらに図ってほしい。
- ・ 校長のリーダーシップの下、教育活動がより良い方向に進んでいる。しかし、教員不足による教職員の負担増は想像以上に大きい。余裕のある教員配置とともに、職務の省略化、効率化が望まれる。
- ・ 児童の安全確保の観点から、門扉をつけるなどの対策が必要である。

【玉井小学校】 (CS委員 後藤 吉美)

○ 重点目標の評価について(下記ア～ウについて)

ア 自ら学ぶ子ども(主体的に学び、学んだことを活用できる子ども)

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

イ 心豊かな子ども(自分や人、ふるさとを大切にできる子ども)

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

ウ たくましい子ども(自分や人、ふるさとを大切にできる子ども)

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

<全体意見として>

- ・ コロナ禍の中、対策を講じながらできる限り行事を実施したことに感謝している。
- ・ 学校の各重点課題の達成状況について評価はA又はBだった。教職員の熱心な指導の成果である。
- ・ 授業において「聞く・読む・話す」ことが工夫して取り入れられている。また、家庭学習に積極的に取り組む子どもも増えている。(特に最高学年)1年生からの積み重ねを今後も大事にしてほしい。
- ・ 読書センターとしての図書館の機能を充実させ、これまで以上に読書、調べ学習等に活用してほしい。
- ・ 児童や保護者のアンケート結果から、主体的に学び自分の考えを進んで話すことができていること、ほとんど100%の児童が学校生活が楽しいと感じていることが分かった。これからもPTA、地域等と連携し、子どもたちの指導に努めていただきたい。



【大山幼稚園】 (CS委員 佐原 弘美)

○ 重点目標の評価について(下記ア～ウについて)

ア 進んで遊ぶ子ども(自ら進んで意欲的に学ぶ子の育成)

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

イ なかよく遊ぶ子(身近な人とかかわろうとする子の育成)

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

ウ 元気に遊ぶ子(心も体も健康な子の育成)

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

< 全体意見として >

- ・ 幼稚園の日々の取り組みが分かり、教職員が子どもたちの成長のために尽力されていることに感謝している。地域住民も子どもたちのためにできることを考えていきたい。
- ・ コロナ禍のため様々な制限があったが、今までの数年の経験から、できることやできる方法を見つけ、子どもたちの体験の充実につなげていることが素晴らしかった。

- ・ほとんどの項目で1学期より2学期の評価が高くなったり、現状維持であったりしている。指導の努力の成果と言える。
- ・幼稚園の雰囲気が高く、先生と子どもたちの信頼関係も良好である。何よりも園児達が生き生きと活動している様子が高評価に値する。

【玉井幼稚園】 (CS委員 今野 裕三)

○ 重点目標の評価について

3つの重点目標としてあげられている下記の項目の達成状況、及び取り組みの適切さについていずれもAとした。詳しくは評価報告書をご覧ください。

ア 自分で考え、進んで行動できる子ども

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

イ 友達と仲良くできる子ども

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

ウ 目標に向かって挑戦できる子ども

◆ 自己評価の適切さ A ◆ 改善に向けた取組の適切さ A

< 全体意見として >

- ・保護者に、園児優先の生活リズムづくりへの協力を更に依頼することが大切である。
- ・園、行政、保護者を交えて現状分析を行い、足りていることと不足していることをしっかりと把握し、改善できることから取り組んでほしい。
- ・幼児期においては個人差があるのが当たり前であり、それが個性でもあるということを保護者に意識づける必要があると思われる。そうすることによって、安心して子育てをすることができるのではないか。
- ・先生方の自己評価は控えめであるが、揺るがない信念で幼稚園教育を推進している。
- ・コロナ禍に振り回されずに、可能な手立てを講じて、園児が伸び伸びと過ごし、行事が普通に行われ、保護者・地域住民の参画が進められるように一歩踏み出してほしい。

(座 長) 各校園の評価委員長さん本当にありがとうございました。
 それでは、続いて令和5年度各校園の経営・運営の方針説明に移ります。大玉中学校より願います。

② 令和5年度各校園の経営・運営の方針説明(各校・園より)

【資料：各校・園 令和5年度学校運営の方針(学校運営ビジョン)】

【大玉中学校】 (校長 安田 浩明)

○ 今年度と大きく変えている部分はない。

○ 本校の教育活動が地域社会に十分に認知されていないことが残念である。情報発信という部分もあるが、受信の問題もあるのではないかと思う。これからは、「参画していただくこと」、「加わっていただくこと」、「じかに見ていただくこと」等がもっと大事になってくると考えられる。

< 変更した点について >

○ 学校像について … 3つ目を以下のように変更した。

“◆ 情熱と使命感を持ち、生徒に寄り添う教師がいる学校 → 「学び続ける教師」”

○ 重点事項について

(知) ○ 質の高い学びを実現する授業の創造

“各種調査結果の分析と学力向上に向けた個に応じた指導の充実” を追加

(体) ○ 基本的な生活習慣の確立に向けた家庭への啓発・連携強化

“学校保健員会と生徒会の連携” を追加

○ 【社会に開かれた教育課程を実現し、地域と共に歩む学校づくりに努める】について

・ 家庭・地域社会・関係機関との連携強化

→ 地域学校協働本部を通じた地域人材の参画推進

→ P T A活動と教育活動がコラボした取り組みの展開

・ 積極的な情報発信 ※HPの充実

・ 安全対策と安全教育の充実(新型コロナウイルス感染症対策、交通安全指導、防災教育)

【大山小学校】

(校長 齋藤 和久)

○ 学校関係者評価の中で「本校の教育活動や先生方の指導は良い方向に進んでいる」との内容があった。そのため、大きくは変えず課題に対しての対策点のみの変更という形にした。

○ 重点事項について

「なかよく助け合う子」について

- 今年度の子どもたちの様子から他者との関わりが課題であることを感じた。
- 心に寄り添う教育の充実
 - ア あいさつ運動の質を向上させ、「されて嬉しい」から「して嬉しい」への転換
 - ウ 行動等を通して子どものよさを伸ばし、教育活動全体を通して道徳性を育成
 - 挑戦する心を育てながら人との関わりを充実させる

「健やかでたくましい子」について

- 健康・安全教育の充実
 - イ 危険予測・回避能力の育成
 - ウ 新型コロナウイルス感染症対策（マスク着用等）… 自己判断できる能力の育成
 - 自分の命は自分で守ることができるように

「進んで学習する子」について

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくり
 - ア 教師自身がわくわくするような授業構想
 - ウ 他者との関わりを意識した授業展開
- 学びを支える学習基盤づくり
 - イ 図書室の利用、「家読」… 家庭を巻き込んで実施する。
 - ウ 誰一人取り残さない学びの実践（ICT機器の活用）
 - ・ 今年度も休みがちな子、コロナで休んだ子に対して家にいながらの授業もやってきた。
 - ・ 不登校ゼロを目指す → 「勉強したい」、「遅れたくない」という気持ちを大切にしながら関わっていききたい。
 - エ 学校支援ボランティアを活用した体験活動
 - ・ 体験活動を通して子どもたちは成長している。次年度も学校支援ボランティアの力を借りながら、子どもたちの経験値を上げて、充実感・達成感が感じられるような体験活動を実施していきたい。

【玉井小学校】

(校長 佐藤 則之)

○ 令和5年… 今年の漢字は「挑」

- ・ 保護者の望みを表したのもの → 令和4年は「進」であったが今ひとつ認識不足だった。
- ・ 「何事にも前向きに挑戦することによって初めて見える世界もある。初めて知ることもある。挑戦しなければ何事も前には進んでいかない。」という思いを強調する。

○ 目指す教師の姿

- ・ 「～人間力あふれる教師」 → 「～子ども主役で考える教師」
- ・ 「～教育力あふれる教師」 → 「～自主性・主体性のあふれる教師」
- ・ 「同僚」を追加

○ 重点事項について

「自ら学ぶ子ども」について

- 基礎的な学力の向上
 - ・ 言語能力と数や量感覚の育成… 児童の学力の実態から
 - ・ 「自己マネジメントカード」を使って望ましい学習習慣づくり… 今年度「自己マネジメントタイム」を設けたが、学年の取り組みに温度差があった。

「心豊かな子ども」について

- ・ 自己肯定感、自己有用感を上げるのに道徳科だけでは足りないので、学校教育活動全体で子どもたちに成功体験をさせたい。3つの重点目標の間に「小さな成功体験の積み重ねから自己肯定感へ」の文言を加えた。

「たくましい子ども」について

- 体力・運動能力の向上と日常化に向けた指導の充実
 - ・ 休み時間の確保はできたが、任せきりになる部分が多かったので「環境の設定」を加えた。体力・運動能力の2極化を改善したい。

【 大山幼稚園 】

(副園長 二瓶 博子)

- 教育目標は大山小学校と同様で『めざせ！夢に向かってがんばる子～地域と共に、自らの夢に向かって努力し、未来を拓く子どもの育成～』であり、重点目標も今年度と変わりはない。
- 今年度は、コロナ禍での課題を少しずつ解決し、全学年での運動会、カレーパーティー、もちつき、保育参観等を実施できた。また、保護者同士の交流の場を昨年度よりは持てたのも大きな成果である。
- めざす教職員像
「子ども一人一人に寄り添う教職員」を追加し、保育の充実を図る。

○ 重点事項について

「自ら進んで意欲的に遊ぶ子の育成」

- 学年目標を見直した。
 - ・ 4歳児 … いろいろなことに興味をもち、自ら進んで取り組むことができる。
 - ・ 5歳児 … 興味や関心を広げ、友達と一緒に意欲的に活動することができる。
- ②エとして、「絵本や物語に親しむ環境の工夫」を加えた。

「身近な人とかわらうとする子の育成」

- 学年目標（5歳児）の変更
 - ・ 友達のよさを認め、仲間意識をもって遊びを進める楽しさがわかる。
- 友達とのトラブルから学ぶ（幼稚園と保護者が同じ意識で子どものトラブルに向き合っているようにすること）
 - ・ 友達とのトラブルについてマイナスにとらえず、学びの機会ととらえるよう保護者に伝えていくこと
 - ・ 子どもの問題を大人の問題にしないこと
 - ・ 子ども気持ちを無視して大人同士で解決したりしないこと



- 社会性を学んでいく場の設定
- 豊かな体験活動の充実

「心も体も健康な子の育成」

- 学年目標（4歳児）の変更
 - ・ 体を十分に動かして、元気に活動することができる … 「遊び」→「活動」
- 危険回避能力について
 - ・ バスチェック表、Jアラートによる避難、虐待防止チェックリスト等を作成し、教育計画に入れて活用することで幼児の事故防止に努めていきたい。
- 預かり保育等で職員は保護者と毎日会っている。たわいもない話でもいいので保護者といろいろ会話をして心を開いていただき、信頼関係を築くことによって、安心安全な幼稚園生活をしていきたい。



【 玉井幼稚園 】

(副園長 後藤 弥和子)

- 教育目標は玉井小学校と同じで『自分やふるさとに誇りをもち、夢や希望に向かう子ども』である。
- 重点目標について

「自ら考える子ども」

- 主体的に活動する意欲の育成
 - ・ 「④児童の発見や考えのよさを見逃さず取り上げ、他の用事の活動に広め、生かす工夫」を追加する。
 - 本人及びまわりの幼児に刺激となる言葉をかけ、「おもしろそう」、「やってみたい」と思わせることによって進んで取り組めるよう仕向ける。

「心豊かな子ども」

- 思いやりの心の育成
 - ・ ②を「葛藤体験を通して相手の気持ちを考える」から「友だちと考え意味を伝え合うことにより、多様な気付きを促し主体的に判断し行動するための素地の育成（わくわく Thinking タイム・非認知能力の育成）」に変更する。
 - 道徳性、規範意識、思考力の芽生え等を育成する
- 今年度は、異学年との交流を増やすことによってつながりが強くなった。次年度も引き続き取り組んでいく。
 - ex. 「低学年の高学年への憧れの気持ち」、「高学年の低学年への思いやりの気持ち」
本日のお別れ会で心温まる姿があった。
- 豊かな体験活動の充実
 - ・ さらに地域にご協力いただいて、自然活動、社会体験を充実させていきたい。

「たくましい子ども」

- 自ら身体を動かして遊ぼうとする意欲の育成
 - ・ 運動だけでなく、毎日の遊びの中でもあきらめないで取り組んだ。
 - お別れ会での披露（あやとり、コマ回し等での様々な技）
- 「新型コロナ対策」を「基本的生活習慣の確立」のところに含めた。
- 幼稚園全体で同じ方向性で進めていきたい。保護者と話をしながらよりよい方向にいけるとよいと考えている。

③ 意見交換 → 承認

(座長) ありがとうございます。各校園の次年度の経営・運営ビジョンの説明がありました。質問やご意見等がありましたらお願いします。各校園ともに、コロナやスクールバスの置き去り等いろいろな問題が日々ある中で、柔軟に対応しビジョンに反映されていると感じました。

いかがでしょうか。大丈夫でしょうか…。

特になければ承認手続きに移ります。承認いただける方は拍手をお願いします。

<拍手多数>

(座長) 承認ありがとうございます。それでは、ここで5分間休憩します。

～ 休 憩 ～

(2) 令和5度おおたま学園CS委員会の運営について (指導主事 渡邊 博樹)

① 令和4年度おおたま学園CS委員会を振り返って

- 本年度、おおたま・オータム・フェスタとおおたまコミュニティ広場を開催できたのは大きな成果だった。

以下資料に基づき説明…主なものだけをまとめて下記に列挙

<成果>

- 2年ぶりに対面で学校関係者評価委員会ができた。学校に関する思い等を話し合えた。
- コロナ禍だったが3年ぶりにおおたま・オータム・フェスタを開催できた。縦の繋がりや大人との繋がりがあって、子どもたちの成長に良い影響があることを実感した。
- CS委員が学校の味方になっていることを熟議を通して実感した。
- CS委員会が学校評価だけでなく、広い意味で子どもたちについて考えることのできる組織になった。
- 中学生がCS委員会の熟議に参加し、貴重な意見を述べてくれとてもよかった。
- オープンスクールは、授業づくりについて先生方が向き合う非常に良い機会だった。

<課題>

- おおたま学園による「一貫性」と「学校の独自性」とのバランスがとても難しい。
- オータム・フェスタで先生方の負担が大きいということだった。～中略～「大変だからやめる」、「毎年やっているから続ける」ということではなく、必要性和改善策について話し合う時が来ているのだと思う。
- 村のボランティア、スポーツクラブ、企業等からも会議に出席してもらい、実際に学校に出向いての支援がスタートできるといい。
- CS委員だけが活動していて、まわりに伝わっていないという状況を改善していく必要が

- あると思う。（「限られた人の、限られた人による、限られた人のためのCS」を打破する）
- 熟議ということで話し合いの時間をもう少し設置できるとさらに良い。（フリートークの形で）

② 基本方針（案）年間計画（案）の説明

- 地域学校協働本部と連携・協働した教育活動を推進し、地域と共に歩む学校の実現、地域コミュニティの活性化等を目指す。
- CS委員会における熟議においては、各校園の経営計画や現状、課題等を共有する機会を設け、学校・家庭・地域が一体となった特色ある教育活動を充実させるための取組を検討する。
- オープンスクール（おおたま学園主催の授業研究会）に、CS委員の皆様も参加し、各校園の学校運営協議会をその当日夕方に行う。熟議においては、可能な限り児童・生徒も参加し、子どもたちの意見を取り入れるなど、子ども理解・学校理解のより一層の深まりとともに、それらに基づいた協議の活性化を目指す。
- 学校関係者評価を実施し、学校経営・運営の改善のサイクルが有効に機能するようにする。
- 第5回おおたまコミュニティ広場（第15回大玉村教育フォーラム）は、保護者、村民の方々が年に1回集い、教育・子育てについて語り合う場として実施する。その際、保護者、村民ができるだけ多く参加できるように、呼びかけ・周知を図る。
なお、内容・方法については、CS委員会において協議する。限られた時間で協議が深まるよう運営方法を工夫する。
- 学校が主体となって企画するおおたま・オータム・フェスタ（第5回）の運営に参画し、ねらいの達成に寄与する。
- 保護者・地域・住民の参画を促すための情報発信の方法を検討し、工夫を図る。

令和4年度の活動実績と令和5年度の計画（案）

| 令和4年度（実績） | | 令和5年度（案） |
|-----------|----|--|
| 月 | 日 | 会議・主な活動 |
| 5 | 9 | CS委員会委員強う・副委員長顔合わせ |
| | | 4/28(金) 第1回役員会 ・第1回CS委員会運営・内容等検討 |
| 5 | 12 | 第1回CS委員会 ・委員任命・学校関係者評価委員委嘱 ・年間計画（CS委員会運営・内容等） ・地域学校協働活動について ～小グループによる熟議～ ・各校園が重点的に取り組むこと、お願いしたいこと |
| | | 5/10(水) 第1回CS委員会 ・年間計画（CS委員会運営・内容等） ・地域学校協働活動について ～小グループによる熟議～ ・各校園が重点的に取り組むこと、お願いしたいこと |
| 6 | 24 | 第2回CS委員会（大山幼・小学校運営協議会）※オープンスクール実施 |
| | | 6/23(金) 第2回CS委員会（玉井幼稚園・小学校運営協議会） ※オープンスクール実施 |
| 7 | 5 | 第3回CS委員会 ～小グループによる熟議～ ・おおたま・オータム・フェスタの実施計画について（教職員・CS委員との合同会議） ・テーマ「保護者・地域住民が主体的に教育活動に取り組みやすくするためには～」 |
| | | 7/5(水) 第3回CS委員会 ～小グループによる熟議～ ・おおたま・オータム・フェスタの実施計画について（教職員・CS委員との合同会議） |
| 7 | 28 | おおたま学園全体会 ・おおたま・オータム・フェスタに向けた教職員・教育委員会職員の打合せ |
| | | 7/27(木) おおたま学園全体会 ・おおたま・オータム・フェスタに向けた教職員・関係機関との合同会議 |
| 9 | | |
| | | 9/19(火) 第4回CS委員会（大玉中学校運営協議会） ※オープンスクール実施 |

| | | | |
|----|-------|--|--|
| | | | 9/30(土)おおたま・オータム・フェスタ(小・中)運営・参画 ※予備日10/1(日) |
| 10 | 1 | 10/1(土)おおたま・オータム・フェスタ(小・中)運営・参画 10/14(金)おおたま・オータム・フェスタ(幼)運営・参画 | 10/13(金) おおたま・オータム・フェスタ(幼) 運営・参画 |
| 10 | 4 | 第4回CS委員会 ・全国学力・学習状況調査結果、ふくしま学力調査結果の概要説明 ～小グループによる熟議～ ・第4回おおたまコミュニティ広場の内容について | 10/4(火) 第5回CS委員会 ・全国学力・学習状況調査結果、ふくしま学力調査結果の概要説明 ～小グループによる熟議～ ・第5回おおたまコミュニティ広場の内容について |
| 10 | 29～30 | 全国コミュニティ・スクール研究大会 in (大分県)～30日 | |
| 10 | 29 | 第5回CS委員会(玉井幼稚園・小学校運営協議会) ※オープンスクール実施 | |
| 11 | 25 | 第6回CS委員会(大玉中学校運営協議会) ※オープンスクール実施 | 11/17(金) 第6回CS委員会(大山幼稚園・小学校学校運営協議会) ※オープンスクール実施 |
| 12 | 12 | 第7回CS委員会 ・おおたま・オータム・フェスタアンケート結果報告について ・おおたまコミュニティ広場の内容について～小グループによる熟議～ ・令和5年度各校・各園の学校運営方針(案)について | 12/12(火) 第7回CS委員会 ・講話 講師招聘を行ったCS委員の勉強会 ・おおたまコミュニティ広場の内容について～小グループによる熟議～ ・令和5年度各校・各園の学校運営方針(案)について 12月中旬 全国コミュニティ・スクール研究大会 in 南部(岩手県) |
| 1 | 12 | 第8回CS委員会 ・おおたまコミュニティ広場の最終確認 ・2022おおたま・オータム・フェスタについて～小グループによる熟議～ ・令和4年度CS委員会の運営について | 1/11(木) 第8回CS委員会 ・おおたまコミュニティ広場の最終確認 ～小グループによる熟議～ ・令和6年度CS委員会の運営について |
| | | 1～2月学校関係者評価実施 各校園委嘱の学校関係者評価委員が行う。各校園毎に日時設定 ※年間の振り返り | 1月～2月学校関係者評価実施 各校園委嘱の学校関係者評価委員が行う。各校・園毎に日時設定 ※年間の振り返り |
| 2 | 18 | 第4回おおたまコミュニティ広場(第14回大玉村教育フォーラム) ・第1部 小中学生の発表 テーマ「大いなる田舎 2大村への思いとこれから」 ・第2部 フリートーク(小グループによる熟議) 「大玉村の豊かな未来へのメッセージ」 ※小中学生の発表はYouTubeによる動画配信 2/28(火)まで | 2/17(予定) 第5回おおたまコミュニティ広場(第15回大玉村教育フォーラム) ・小中学生の発表 ・小グループによる熟議 |

| | | | |
|---|----|--|---|
| 2 | 24 | 第9回CS委員会 ・学校関係者評価報告 ・学校運営方針→承認 ・R4 反省 ・R5 計画(CS委員会の組織、運営等) ・R4 地域学校協働活動実施状況 | 2/26(月)第9回CS委員会 ・学校関係者評価報告 ・学校運営方針 → 承認 ・R5 反省 ・R6 計画(CS委員会の組織、運営等) ・R5 地域学校協働活動実施状況 |
|---|----|--|---|

- 6、9、11月実施の各校園主体の学校運営協議会は、オープンスクール（5校時の授業参観）と一緒にやる。そのため、午後から夕方にかけて開催する。（授業参観一事後研究会－学校運営協議会の午後半日の予定）
- CS委員の任期は2年のため、令和5年度に委員の改選を行う。

③ 意見交換

- (座長) 只今計画案と盛りだくさんのアンケートの説明がありました。進行からの質問で申し訳ないのですが、令和5年度計画案の中ですが、以前の反省でオータム・フェスタの前に一度集まった方が良かったという意見が多かったと思います。それは9月19日の大玉中オープンスクールで行うということでしょうか。
- (渡邊指導主事) これは検討課題であり、9月19日はあくまで大玉中に特化したものであり、オープンスクールでの熟議は難しいと思います。別の会議（打合せ会）を計画するののも一つの方法かと思っています。
- (座長) 今年課題で出たことは実行していかなければなりませんのでよろしくお願いします。それから、第7回CS委員会の勉強会は学校評価についてでしょうか。
- (渡邊指導主事) まだそこまでは考えていないのですが、昨年度は学校評価のことで講師がいらしたということなのですが、中身については来年度のメンバーで考えたいと思います。
- (座長) 分かりました。みなさんから気になる点がありましたら…。「今年度のCS委員会を振り返って」にいいことがたくさん書いてあるので、ゆっくりと見てみたいと思っているのですが…。次年度の計画についても何かございましたらお願いします。
- (佐藤校長) 年間計画の3つめの項目に「～熟議においては可能な限り児童・生徒も参加して～」とあり、小学生も参加ということだと思いました。今年度玉井小は第三者評価に該当していて、評価委員の方々が子どもたちの話を聞く機会があったようで、「子どもたちはとてもいい意見を持っていますね。」とお褒めの言葉をいただきました。
- 今、高学年を入れて話す機会をどうやって作ったらいいのか考えていたところですが、子どもたちの下校時刻等もあるので、この辺はまた検討するとして、ここにあげる以上は、「可能な限り」とはありますがチャレンジしていかないとと思っています。ぜひ、お知恵をお借りしたいと思いました。
- (座長) 児童が入るということは、中学校のように学校運営協議会に小学生が参加するということだと思います。中学校で「参加してよかった」という反省でしたので、小学校でも可能な限り入ってもらいたいと思っています。
- (麻生委員) オータム・フェスタの前の会議は、直前ではなくて、第3回CS委員会で細かく考えるという予定になるのではないかと思います。
- (渡邊指導主事) 計画が固まってしまってから考えると、会議がもう1回増えるということになります。（6月17日はオープンスクールで熟議はできない。5月の第1回CS委員会からオープンスクールはできない。）第3回に照準を合わせるのであれば、8月末に打合せ会をもつのがいいかどうか検討させていただきたいと思います。
- (麻生委員) 校長先生方に伺いたいのですが、現在私は学校支援ボランティアに登録していて、LINEで「〇〇〇に参加しませんか」と連絡が来るのですが、それ以外に私がやりたいボランティアがあるので提案してもいいでしょうか。これまで、どの程度学校に入っているか悩みながらやってきました。じゃまになってもいけないし、感染症対策は別として、読み聞かせとか食育のお手伝いとか…。
- 今後やってみたいのは、サブティーチャーとかサポートティーチャーです。先生が一人で授業をされているのですが、中学校では眠ってしまう子がいたり、ケアレスミスに気がつかないまま苦勞している子がいたりするので、声かけをする人がいるだけで学力も学力が大分変わってくるのではないかなと思っています。先生を増やすことは難しいので、例えば、講習を受けたボランティアがマル付けボランティアみたいな感じで参加するというのを（私も時間がそうあるわけではないのですが）年に何回かやってみたいと思っているのですがいかがでしょうか。

(座 長) ご意見ありがとうございます。次の「(3) 地域との協働活動実施状況報告等」のところでそれについても答えてくれると思いますのでお待ちください。

まとめに入ります。オータム・フェスタについては、直前で1回集まって確認したいというのがCS委員会の総意だと思うので、まずは7月の第3回CS委員会で話して、当日(9月30日)のちょっと前に集合時間や詳細を頭に入れておくだけでもいいのかなと思います。スケジュールが難しいとは思いますが、今年度いろんなボランティアの方々から、1~2週間前に実施するのかどうかについて訊かれましたので、よろしく願いいたします。

(渡邊指導主事) そうなると、続けて参集していただくようになるのですが、その辺も含めて検討していきたいと思います。

(座 長) それでは、(3) 地域との協働活動実施状況報告等について事務局よりお願いします。

(3) 令和4年度地域学校協働活動実施状況等について

① 事務局より説明 (協働本部事務局 佐藤 勇人、田辺 将裕)

○ 本日はあまり時間がとれないので、委員の方々に事前に資料をお送りし検討していただくようにした。評価・検証シートに書いていただいたことをもとにご意見をお伺いしたい。

○ 下記のように、2月10日~本日までに実施したことについて説明した。(資料は2月10日現在で作成していたため)

| <学校支援ボランティア活動状況> | | (活動回数) | (延べ人数) | |
|------------------|--------------------------|--------|----------|-------|
| ・ 2月22日 | 玉井小「授業参観後の待機児童の見守り・交通整理」 | 1回 | 4人 | |
| | 大山小「授業参観後の待機児童の見守り」 | 1回 | 2人 | |
| ・ 2月24日 | 玉井幼「お別れ会」 | 1回 | 3人 | |
| ・ 活動回数計 | 177回、延べ人数計 | | 398人 | |
| <放課後子ども教室> | | (児童) | (ボランティア) | (保護者) |
| ・ 2月17日 | 大山井子ども教室「囲碁・将棋・オセロ」 | 24人 | 4人 | 0人 |
| | 玉井子ども教室「B班 万華鏡づくり」 | 20人 | 4人 | 0人 |

(田辺社会教育係長) 学校支援ボランティアについては、別紙1のように学校の要請があつて、学校支援ボランティアの方々にお世話になりながら実施しています。先程お話があつた読み聞かせ等も結構やっております。

一昨年からボランティアの方々に LINE に登録してもらい、学校園の要請の情報をお送りして手あげ方式で決定するという方法をとってきました。募集〇名という形でお願いし、定員に達したらそのことを LINE でお知らせするというやり方です。以前は、学校支援コーディネーターが、名簿上登録してある方で出られそうな方に直接電話をしてお呼びして決めていました。そうするとどうしても片寄りが出てしまう傾向がありましたので、今度はみなさんに平等にお知らせして、決定した方に活動していただくようにしています。

最近では、学校の協力もあり、保護者の学校支援ボランティアの登録も数名増えています。これはとても良いことなので、今後もまた増やしていきたいと思っています。近くのお知り合いやお友だちとかそういう関係で声をかけて広めていただいてボランティア増やすと、さらに充実した学校支援ができるのではないかと思いますのでよろしくお願いします。

(佐藤CN) 基本は学校の要望だと思っています。「こんな授業をしたい」、「ここにこんなボランティアさんが入ってくれば効果的な授業ができる」等で学校に要望してもらい、ボランティアさんに支援に行ってもらおうという流れで今までやってきました。

麻生委員さんの話を聞いて、たぶん学校でもいろいろ考えてくれるのではないかと思います。それから、コロナ禍でなかなかできなかつたのですが、コロナ前はマル付けボランティアとして大山小学校に出向いていたこともありました。(私も一緒に行つてマル付けをしました。)これからそういうことがどんどん復活していくのではないかと思います。

(齋藤校長) 大山小はいつでもウェルカムです。助けていただけるならありがたいです。

② 意見交換

(田辺委員) 今お話を伺つて、そういうことだったんだと思いました。先生方の中にもこの活動の趣旨を理解していない人がいるかもしれないと感じ、詳しくアンケートを読ませていただきました。学校支援を活性化させていく必要があるとは考えていますが、先生方もいろいろと忙しいし、それぞれが大変だということです。学校支援ボランティアの方もどういったスタンスで行けばいいのかよく分かっていないのかもしれないかもしれません。(「行ってやった」ではいけない…)

みんな（学校、学校支援ボランティア、地域）がこの活動はどういうものかを把握しておくことが大切で、そうすることによってよりうまくいくのではないかと思います。

（齋藤校長）今おっしゃったことはその通りだと思います。先程の運営ビジョンの中で、「されて嬉しい挨拶」から、「して嬉しい挨拶」をめざすと言ったのですが、ボランティアにも同じ部分があるのかなど…。「感謝されないんだったらやらない」ではなく、相手のリアクションや受け取りに関係なく、「そういうことをしてやれたことが嬉しい」、「こんなことができた自分が誇らしい」と思えるボランティアがやはり本当にあるべきボランティアの姿だと思うんですね。でもこれは究極ですごく難しいのも事実です。人間は感情があるので、（アンケートに書いてあるように）コミュニケーションをとったり、やってもらって当たり前だと思わずに、先生方も意識を変えていくことが本当に大事なことだと思います。

来年も助けてくださいと言っておきながら、私たちの態度が横柄だったり、「何だ、こんなだったら来てもらわない方が良かった」というようではこのシステムはうまくいきません。お互い気持ちよく関わっていきけるような活動はできないし、子どもたちに良い影響はないと思います。子どもたちのためにやっていることであるので、今のお話を大切にしたいと思います。

また、私たちもボランティアに手をあげて下さった方々がどのような経歴や特技を持っていらっしゃるのか分かっていないことがあります。実際にお話しさせていただく中で、実はこういうこともできるとかこんなことに詳しいとかに気付くことがたくさんあります。県で人材バンクを作成したこともあったのですが、実際にはなかなか機能してはいません。地域の方でこんなことができる人がいるという情報があると授業や活動の大きなヒントになると思うので、何かしら形としてお知らせいただけるようになるとありがたいと思いました。



（田邊委員）私もオープンスクールに参加して、幼・小・中の先生方が一生懸命にやられているのは分かっています。ここ（アンケート）に書かれているのはほんの一部だとは思いますが、そのことを実際に相談を受けた時には、「先生方は一生懸命にやられているよ」「子どもたちのことを考えているよ」とフォローしています。今校長先生がおっしゃったように、子どもが真ん中にいて、（ここにも書いてあるように）「協働活動＝業務の負担軽減とまらないのが現状」かもしれませんが、毎日夢を持って楽しく学校に行ける子が一人でも多くなればすごくやりがいがあるし、確かに忙しい思いをするかもしれませんが、「子どもたちのために」というふうにと考えると、一人一人がよく考えなければならないと思います。先生方が一生懸命にやっていないということではなく、フォローしながらの現状もあったということで発言させていただきました。

（4）第4回おおたまコミュニティ広場（第14回大玉村教育フォーラム）アンケート結果から

① 事務局より説明（CSディレクター 佐藤 勇人）

『資料に基づき説明…主なものだけ下記に列挙』

【アンケートから】

- | | |
|------------------|-----------------------------|
| ①『1部』小中学生の発表について | ○「とてもよい」98%（前回<R元>比+22ポイント） |
| ②『2部』フリートークについて | ○「とてもよい」89%（同 +25ポイント） |
| ③村のため何か始めてみたいと思う | ○「とてもそう思う」69%（同 +27ポイント） |

【意見・感想等】 ※主なものを抜粋

○ 第1部 小中学生の発表について

- ・みんな良い発表でした。大玉村を未来につないでいきたいです。私たちが考えたことが大人の方々にも認められてうれしかったです。（小学生）（中学生）
- ・子どもたちの発表も、いろいろなものへ参加したり、考えたりしているからしっかりと意見がでていて感じています。子どもたちが考えたこと、各班でいろいろな意見がでたことが一つでも実践されればいいなと思いました。このような場に初めて参加しましたが、村を良くしていくにはもっといろいろな人の参加が必要だと感じました。（保護者）
- ・子どもたちが学習を通して学んだことをこのような形で発表することができ、それが地域の方に伝わって何か一つでも村の魅力を高めることにつながればとてもありがたいと考えています。（教職員）

- ・小・中学生の発表がとても良く、感動しました。自分が小さいとき、そこまで大玉村について考えられていたかなあ？と思うと、本当に今の子どもたちはすごいなと感じました。食品ロスなど SDG s の点から考えられていて、特に“コメチー”とかは食べてみたくなりました。とても楽しかったです。ありがとうございました。(その他)

○ 第2部 フリートークについて

- ・フリートークでふだん関わることのない人たちと大玉村のことについて話せて良かったです。(小)
- ・大玉村の課題や問題点等グループで話し合い、とても楽しく取り組むことができました。(中)
- ・テーマが広がったので第2部の時間は短く感じました。逆に短い時間だからこそ集中していい意見や発想が生まれていることも確かだと思います。課題としては、とても素敵な発表をしてくれた学生さんたちが第2部では奥ゆかしくて話に入りにくそうだったことです。子どもたちの意見は今後の村にとって一番大事にしたいことだと思うので…。(保)
- ・小学生、中学生、大学生の方々の生の意見を聞くことができました。時間が足りないくらい熱中しました。ありがとうございます。(CS委員)
- ・学校の取り組みでの悩みなどもお話しすることができて、新しいアイデアをいただきました。帰って実践したいと思います。(教)

○ コミュニティ・スクールとして取り組んでほしいこと等

- ・人と人との交流ができるような場所をつくってほしい。(小)
- ・地産地消、食品ロスを減らす、今回の発表で出た食品を広げるキッチンカー(中)
- ・大玉村は農業が盛んで、ご近所付き合いやお裾分け等もありますが、それを活かし、無人販売を促進し、村外から集客して村を更に活性化したいと思います。また、小中学生の柔軟な考えには心を打たれた次第です。それと、せっかく良い村なのに知らない人の方が多い。提案があったQRコードはうまく活用、運用したいです。(保)
- ・コミュニティ広場の取り組みを村内外に広くPRしていくことで、今後につながっていくのではないと思う。関係者以外の方にももっと関心をもってもらえるような工夫をしていかなければならないと思う。(教)

② 質疑応答

(座長) かなりの内容で成果もあれば課題もあるのですが、みなさん、いかがでしょうか。ただ一つ言えることは、子どもたちの提案を実現したいなと思っていることです。

(五十嵐委員)

- 大玉村の地域学校協働活動事業は素晴らしい取り組みだなと、私はこの2年間思ってきました。また、教育委員会の方も本当に一生懸命取り組んでいて、会議についてもきちんと整理しており、非常に感心していて、これからますます充実・発展させてほしいと願っているところです。
- 先生方の反省の中に「ボランティアを受けるにしても話し合いの時間がとりにくい」とか、また、「ボランティアをどういうふうに入れているのか分からない」とかの悩みや教職員の忙しさということについても意見が見られていました。そこで一つ気になったのが、教育委員会の考え方として、14ページの(考察の)最後のところで「教職員個々の地域学校協働活動についての理解度の差が大きい。何らかの研修によって興味・関心を高め、主体的に取り組んでいけるようにしていく必要がある」というような先生方に対する評価が書いてあったことです。

先生方が忙しいということは新聞やテレビ等でも報道されており、先生方の置かれている立場はとても大変だなと思います。教職員の志望者も減少しています。そんな中でも、先生方は学校が好きだし、授業も好きだし、子どもも好きだし、すなわち教育が好きで頑張っている。そういう時に、「地域学校協働活動がうまくいかないのは先生方の理解が足りないんだ」という見方で先生方に教育委員会が接しているようであれば、それは非常に思い上がった考えだと受け止めてほしいです。

学校では、先生方がゆとりが持ち、子どもと一緒に話したりふれ合ったり、教育活動を進めたりできることが大事ですし、また、教育委員会も先を見通してこの活動をどういうふうに展開していったらいいか、地域の方々の協力をどのように受けていったらいいかということを考えてほしいと思います。ボランティア、子ども、教師が、余裕を持った教育活動を実施した後に、「とても楽しかった」「またやりたい」、「次はこんなことができそうだ」という期待が膨らむことによって地域学校協働活動が発展していくと思います。現場の先生方の気持ちを大切に、もっとゆとりがあれば先生方同士の交流の中で活動も充実していくと思います。そういう話し合いを持ってない忙しさの中で、研修を持つようなやり方は決して先生方のためにも子どものためにもならないと思います。

ぜひ「ゆとりある学校」ということを学校の中でも先生方同士で話し合ってもらいたいし、教育委

員会ももっと先生方を指導しなければならないというような姿勢は2番目ぐらいに置いて、どうしたらいい活動になるかということを一に考えて今後進めていただきたいと思います。
(座長) 貴重なご意見本当にありがとうございました。
それでは時間もございますので、次に移りたいと思います。

(5) 令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果【大玉村概要】について

(事務局 指導主事 渡邊 博樹)

※ 略 < 資料に基づき説明…児童生徒の実態について >

(座長) 質問や意見等あればお願いします。

(CS委員) ~特にない様子~

(座長) それではこれで協議を終わります。ご協力ありがとうございました。

6 今年度の総括

(CS委員会会長 伊藤 和弥)

みなさん、本日はありがとうございました。ここ数年来の学校関係者評価や各学校園の経営ビジョン等についての協議を通して、かなり参考になりましたし、学校園への理解も深まったと思っています。地域学校協働活動事業は、いろいろ盛りだくさんの活動ではあるのですが、学校はもちろんのこと、子どもたちの豊かな体験活動のためにとっても良い活動が実践されているなど年々感じています。いろいろ課題もあるわけですが、このコロナ禍の中、こういうふうに活動できたことは、今後ますます飛躍するきっかけになるのかなと思いました。

それから、みなさん、2年間本当にお疲れさまでした。ここで退く方もいらっしゃると思うのですが、地域に帰っても(CSが)こういう活動をしていることを広めていただきたいと思いますし、CSとしても今後ゆとりある学校を増やしながら活動していければと考えています。

2年間ありがとうございました。



7 その他

- 大玉中学校 安田校長先生より(感謝の言葉他)
- 「令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果【大玉村概要】資料」は回収する。
- 地域学校協働活動「評価・検証シート」の提出

8 閉会の言葉

(CS委員会副会長 吉田 都)

長時間にわたりお疲れ様でした。今年度最後になりましたが、これで令和4年度代9回CS委員会を終了いたします。本年度、本当にありがとうございました。お疲れさまでした。